

1. 単位認定・卒業認定の流れ

1) 単位認定の流れ

- ・授業科目を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を認定する。
- ・単位の認定は、科目試験・実習評価・学修態度・出席状況を総合して行う。
- ・入学前の履修科目の単位認定については、学生からの申請があれば協議の上認定する。

評価基準	優	良	可	不可
評価点	100～80点	79～70点	69～60点	59～0点
認定	認定	認定	認定	不認定

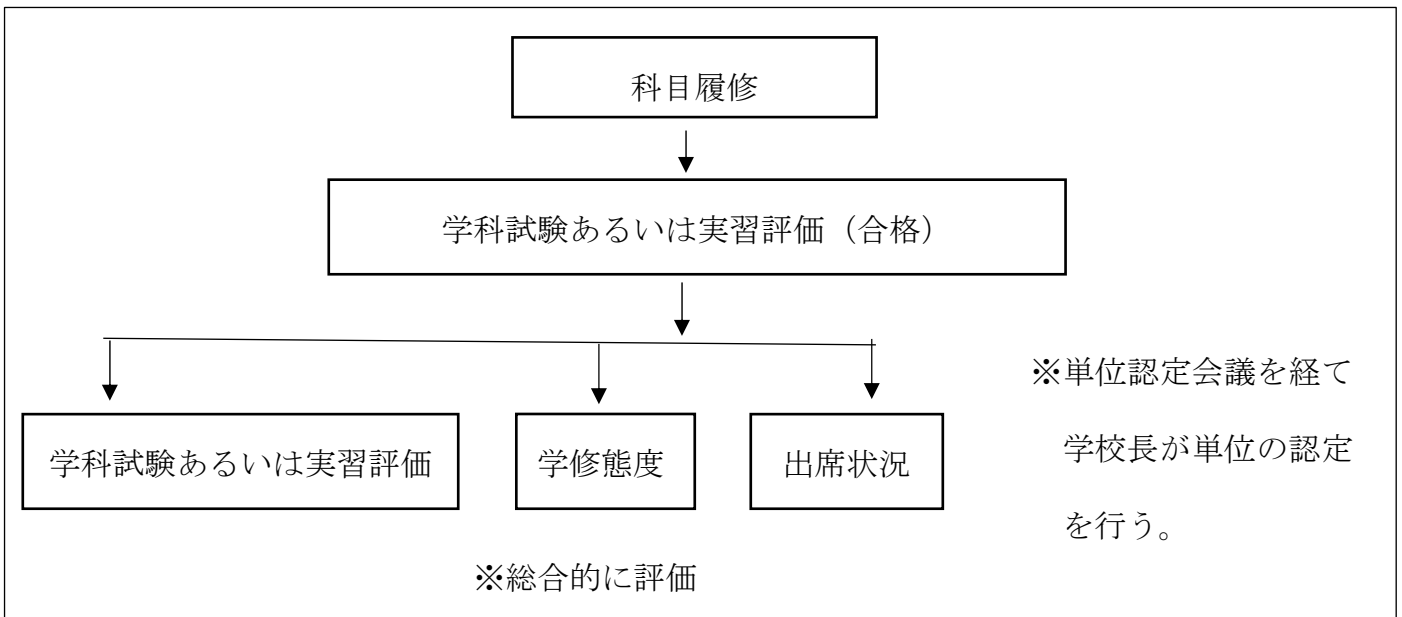


図 1.単位認定会議の流れ

2. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の方法

学科試験・レポートまたは実習評価および学修態度、出席状況を総合して行う。
既修得単位の認定は、学則第5章第2条 既修得単位認定規程に基づいて行う。

(1) 学科試験について

①受験資格

- ・受験資格は各科目該当講師の授業時間数の3分の2以上出席していること。

②受験時期

- ・各学科試験は、講義終了後に行う。
- ・講義時間数の多い科目については中間試験を行うこともある。
- ・1単位に複数の講師が担当する場合は、1回の試験として扱う。

③試験方法

- ・科目の形態・目標・内容により、筆記試験や実技試験（看護技術）が行われる場合がある。

(2) レポートについて

①レポート課題の提示

- ・担当講師から随時、課題の提示がある場合や、学科試験にかわるものとして提示される場合がある。

②課題の提出

- ・各科目のレポート課題の必要事項（課題、提出形式、枚数等）を確認し、期限・時間を厳守する。

(3) 実習評価について

①実習評価資格

- ・実習時間数の5分の4以上出席していること。

②実習評価の方法

- ・学習過程・記録で実習評価表を用いて評価する。
- ・ルーブリック評価表を用いた評価を行っている。

③記録の提出期限

- ・提出期限が守れない場合は、記録による評価ができない場合がある。

(4) 学修態度・出席状況について

①学修態度・出席状況

- ・学習者の学修態度・出席状況は学修過程に大きく影響するため、学修態度・出席状況を整えることが大切である。

(5) 卒業研究の評価について

①パフォーマンス課題の提示

- ・担当講師から学科試験にかわるものとして提示する。
- ・論文作成、論理性、看護体験の意味づけ、発表の評価視点に沿って、「大変良い」「よい」「努力を要する」の3つの尺度を用いてルーブリック評価表を用いて評価する。
- ・評価項目は100点満点で点数化する。
- ・ルーブリック評価は、事前にパフォーマンス課題を提示し、その課題に対するパフォーマンスをルーブリックという基準に沿って評価し、学習課題の理解度を確認できる有効な手段である。

2) 評価基準

①成績評価の基準

- ・優（100～80点）良（79～70点）可（69～60点）不可（59～0点）として、可以上を認定とする。

3) 成績管理の方法

①成績入力と処理

教務主任が表計算アプリケーションを使用して各科目の個人得点を成績入力・データ処理を行う。
表計算機能を使って単位修得証明書（成績証明書）を作成
各担当教員は採点結果を記入した履修表を作成

②試験結果の確認

成績入力の確認方法

受験した試験用紙と採点結果を記入した履修表を学生本人に返却し、試験結果を学生本人が確認

第1回目 2名での確認 原本（教務主任）・成績一覧表（副学校長）

※実習の場合、実習評価一覧表

第2回目 4名での確認 成績一覧表（教務主任）・成績一覧表（副主任）

個人評定表（副学校長と担任）を確認後、必ず署名し、成績確認表（実施日・確認者）、成績一覧表、個人評定表をファイルに保管

学籍簿として永久保存（データ・紙）改ざんなどできないよう耐火庫保存

確認時期：原則、前期・後期終了時点とする。

前期 9月 第3週目 ※4年生 前期5クール目まで

後期 3月 第5週目

送付時期：前期・後期各終了時点で第一保証人宛に全学生に送付

前期 10月 第1週目

後期 4月 第1週目（4年次は卒業日に単位修得証明書送付）

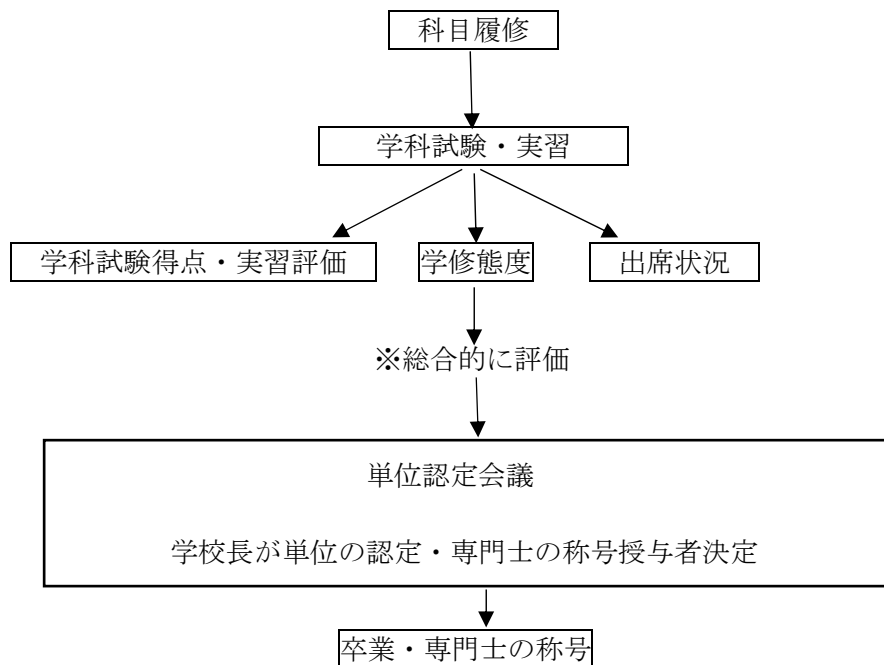
4) 進級認定

- ・各科目・実習の単位は在学期間中に修得する。(8年間を超えてはならない)
- ・単位未認定の科目は、次年度以降にその科目を受講し、試験に合格すれば認定となる。
ただし、3年次終了までに取得する必要がある。
- ・日常生活援助実習は、病院環境と生活を理解する実習の単位修得後とする。
- ・専門分野Ⅱ・統合分野の実習は、日常生活援助実習の単位取得後とする。
- ・実施時期：各学年 年度末

5) 卒業認定

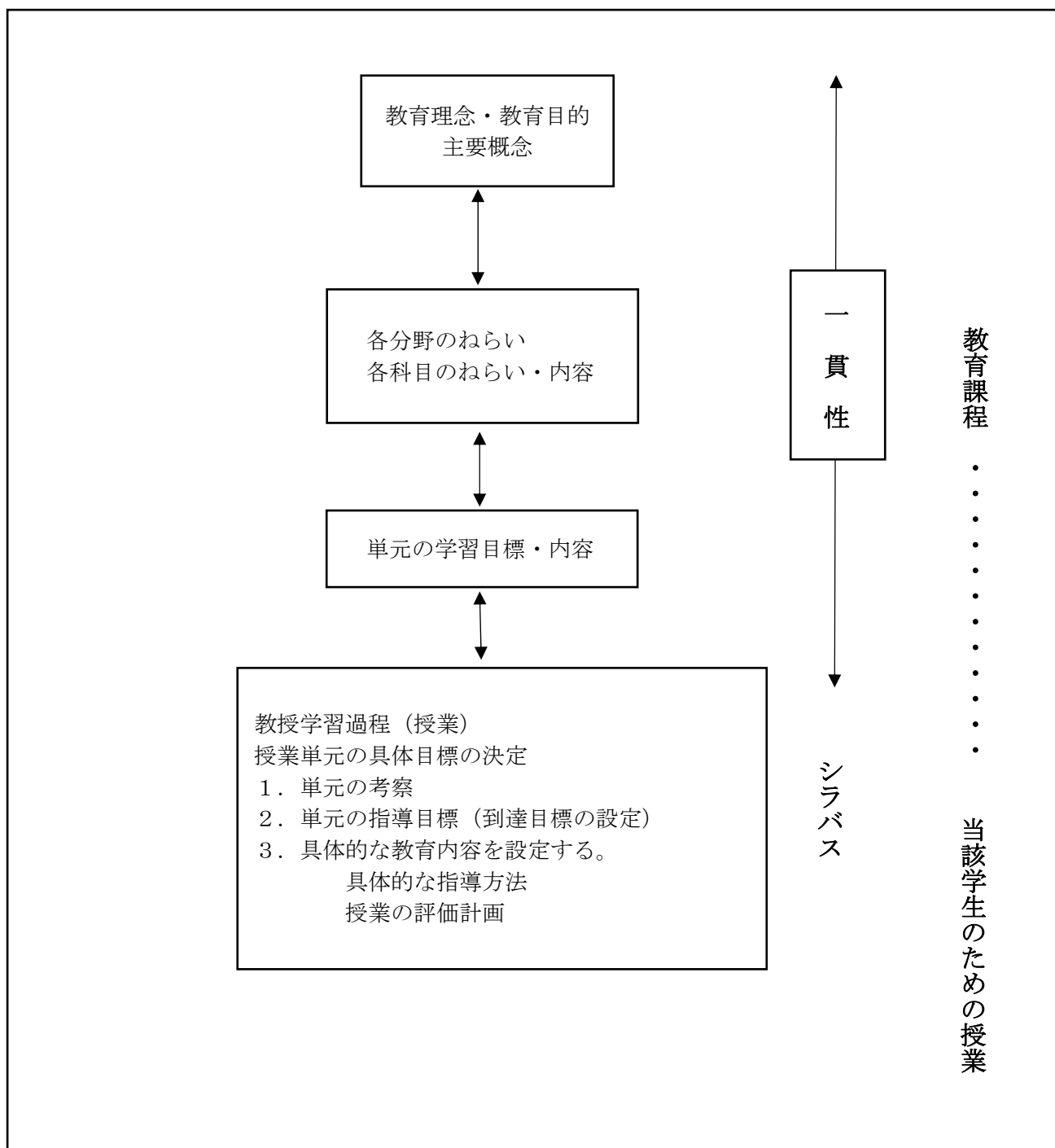
- ・本校では卒業時に身につけさせたい能力を検討し、教育目的・目標を掲げている。
- ・本校の定める教育課程の全科目・全実習を履修し、105単位を認定された者には卒業を認定する。
- ・卒業の時期は、前期または後期の終わりとする。

● 進級・卒業を認定する単位認定会議の流れ



3. 教育課程の編成

教育理念を基に目的・目標・主要概念を掲げ、教育課程を編成している。
学習支援が、学校全体としての一貫性を持つ支援につながるように、授業評価をもとに、教師間での内容検討を行う。



教育課程における授業の位置づけと構成要素

引用 <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/04/s0423-8a2.html>

本校の用語に一部改変